

視野障害になるドアバイザー日本人はなぜ付ける。非関税障壁

高齢になると目の視野角も狭くなるはず、自動車のAピラーに付けるドアバイザーは、視野の邪魔になるのでは、さらに緑内障なら絶対につけないほうが良いと思うが、自動車メーカーのカタログには「おすすめセット」として販売店オプションになっている。視野障害の注意もない。

ChatGPT:

おっしゃる通りです。高齢者や視野に障害を持つ方(特に緑内障の方)にとって、Aピラーまわりの視界を遮る要素は、安全性に直結する重大な問題です。以下に医学的・工学的・商品設計の観点から整理します。

◆ 1. 高齢者・緑内障と「視野障害」

👤 高齢者の視野特性

- 加齢により周辺視野が徐々に狭くなる(「視野角の縮小」)
- 動体視力・暗所視力・コントラスト感度も低下
- 脳の視覚情報処理能力も減退 → 視界の死角に気づきにくい

👁️ 緑内障の特徴

- 周辺から中心に向かって徐々に視野が欠けていく進行性疾患
- 初期～中期では本人も気づかないことが多い
- 特に「左右方向の視野が狭くなる」→ 歩行者や自転車の見落としリスク大

◆ 2. Aピラー+ドアバイザーの視界阻害

🚗 Aピラーとは

- 車の前面左右にある構造柱
- エアバッグ収納や強度確保のため、年々太くなっている

👉 これだけでも斜め前の死角が大きい

✚ ドアバイザー(オプションパーツ)

機能

リスク

雨天時の換気 視界の上部～斜めに黒い縁が重なって視界遮断
サイドガラスの曇り軽減 逆に夜間や夕暮れに余計な反射・映り込みを生む

🚩 特に A ピラーとドアバイザーの重なり部分で「視界の死角ゾーン」が拡大
→ 歩行者や二輪車の見落としリスクが大きくなる

◆ 3. 自動車メーカーの対応と矛盾

! 「おすすめセット」としてバイザーを推奨する例(現状)

- 多くのカタログで「ドアバイザー＋フロアマット」が定番の「おすすめセット」
- しかし、そのほとんどは**「視界への影響」や「高齢ドライバーへの注意喚起」は記載されていない**

! 安全支援装備とのミスマッチ

- 最新の ADAS(自動運転支援システム)やカメラが安全支援をしても、物理的に視界が遮られる部分には対応しきれない
- 結果として**「見えないことによる事故」が増える**

✅ 結論: 緑内障や高齢者は「ドアバイザー非推奨」

🔒 以下のような方には、特に装着を避けるべきです

状況	理由
高齢で視野が狭くなっている方	周辺の視認性が落ち、事故リスクが上がる
緑内障・白内障などの眼病歴がある方	死角への感知力が弱く、ピラー＋バイザーの影響が大きい
夜間・夕暮れの運転が多い方	反射・映り込みで視界が不安定になる

📝 提案: メーカー・販売店がやるべきこと

1. 「おすすめセット」に安全適性の表示を明記するべき
 - 「視野障害のある方には非推奨」などの注意書きを追加
2. ピラー・バイザーの形状設計の見直し

- 透明素材の併用、ピラー削減構造(例:ホンダ・クラリティ)など

3. 視野チェックと車装備のマッチング提案

- 購入時に「視野検査+オプション最適化」サポートを